
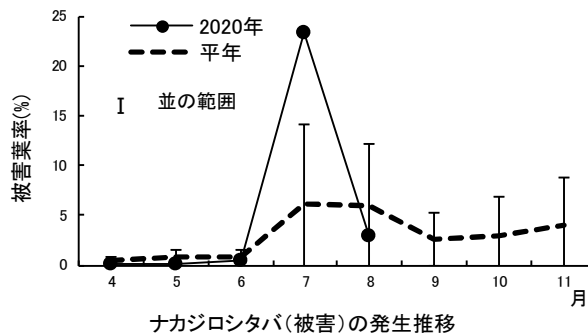
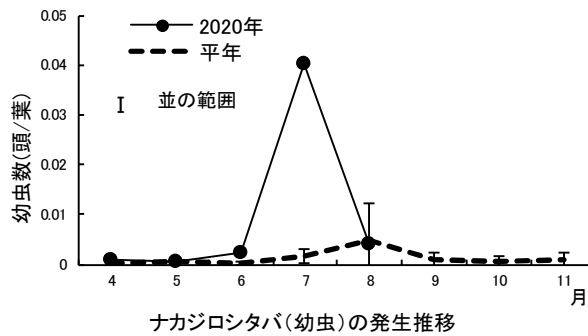


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① ナカジロシタバ		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	↘	
	9 月の発生量 (平年比)	並	

予報の根拠


平年の発生量の推移 (↘)

調査結果

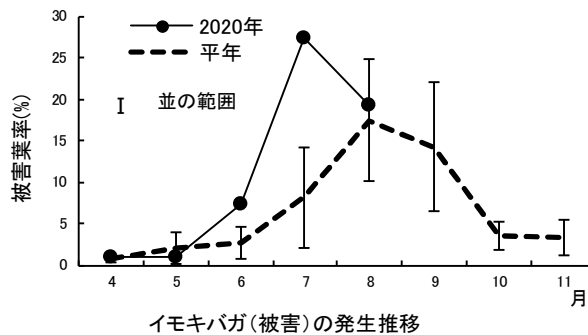
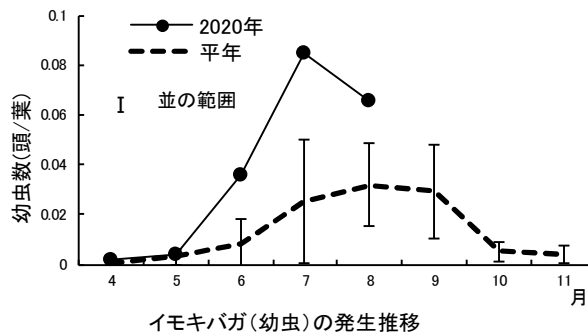


防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	② イモキバガ		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	8 月からの増減傾向	→	
	9 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

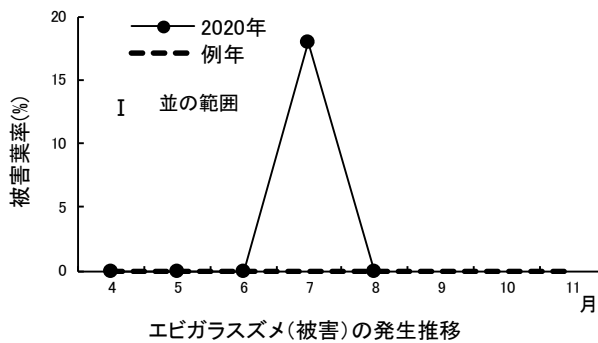
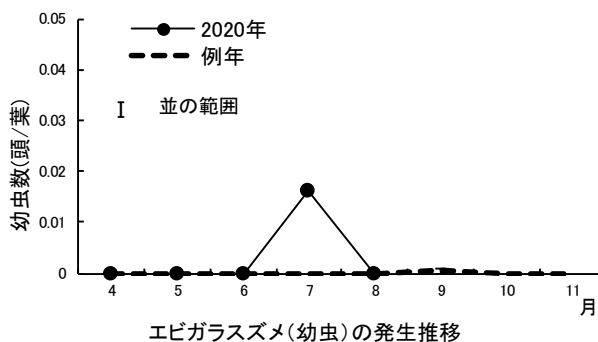


防除のポイント

- ・ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。
- ・ つづった葉の内部に潜んでおり、直接薬剤がかかりにくいいため浸透移行性のある薬剤を使用する。

作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	エビガラスズメ		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	—	
予報	8 月からの増減傾向	—	
	9 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果



防除のポイント

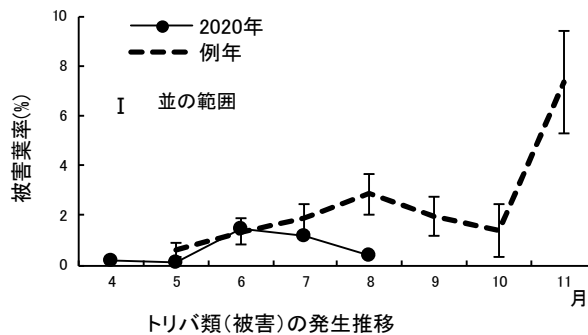
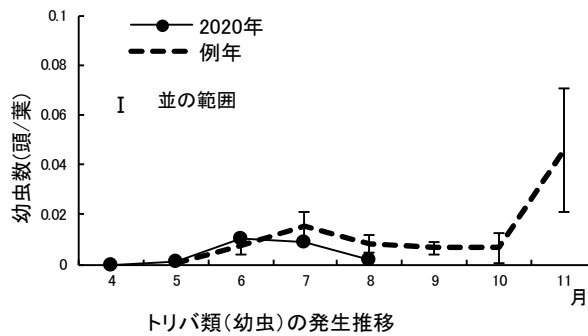
- ・ 若齢幼虫の早期発見に努め、薬剤防除を行う。

作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	トリバ類		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	—	
予報	8 月からの増減傾向	—	
	9 月の発生量 (平年比)	—	




予報の根拠

調査結果

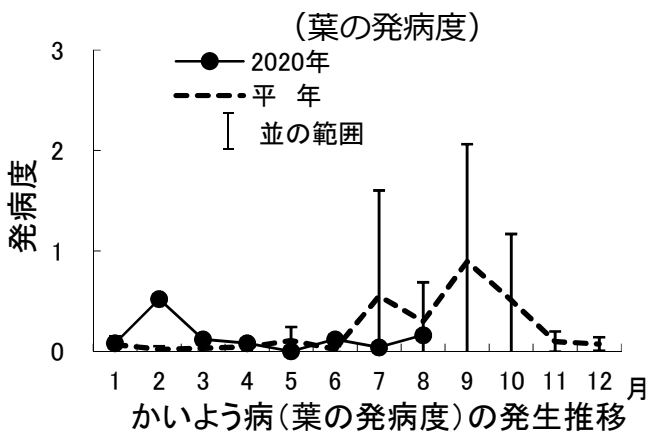
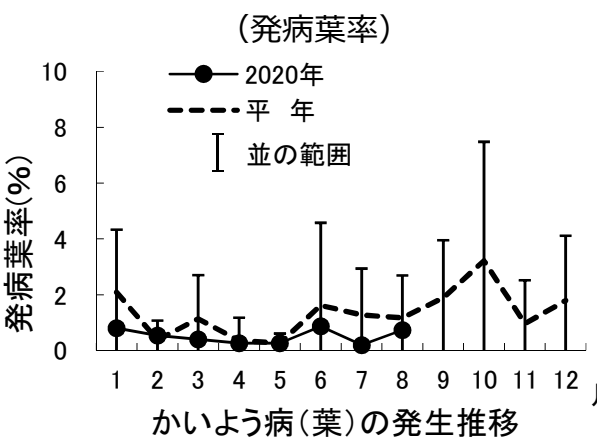
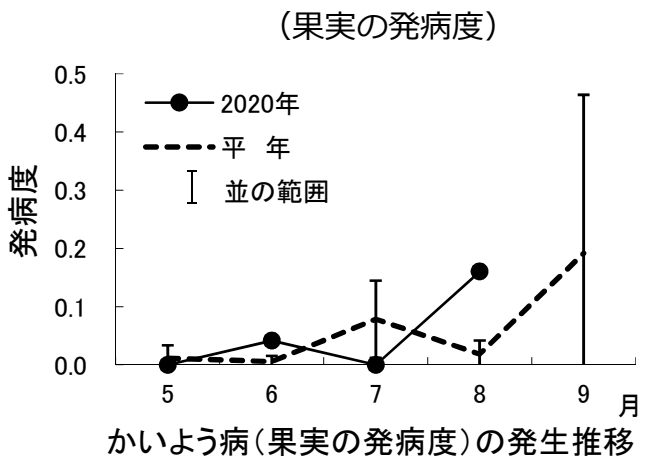
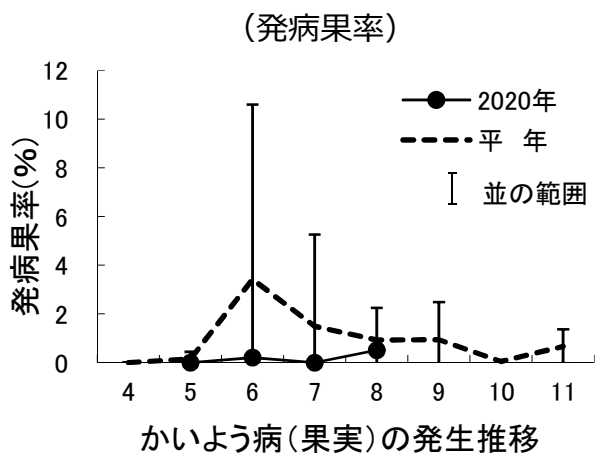


防除のポイント

発生初期の防除が有効であるので、被害葉が出はじめたら、薬剤散布する。


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並	
予報	8 月からの増減傾向	→	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果

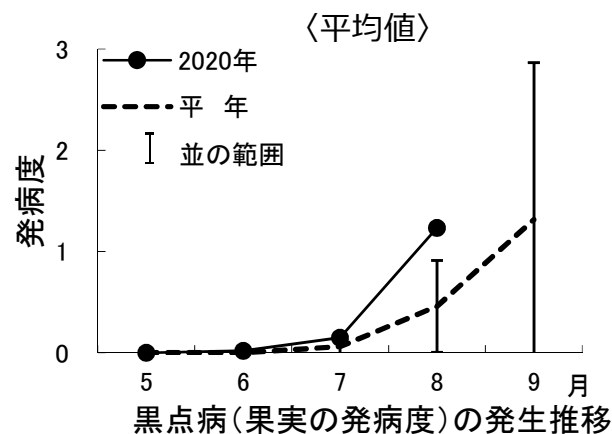
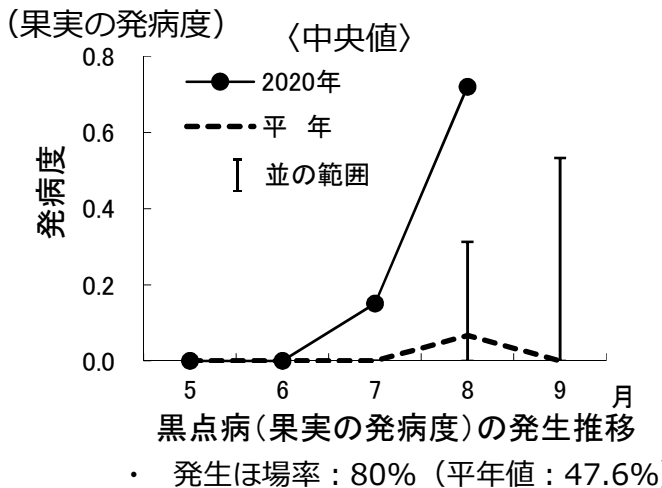
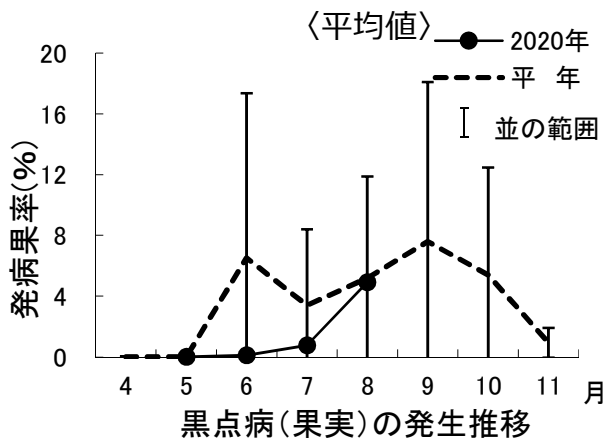
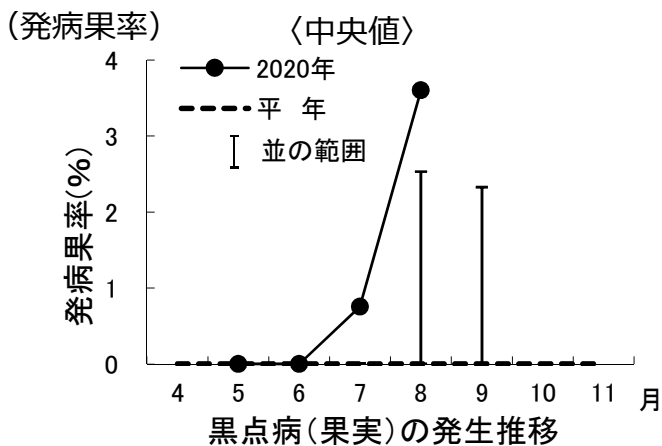


防除のポイント

- ・罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。
- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
		9 月の発生量（平年比）	やや多
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果



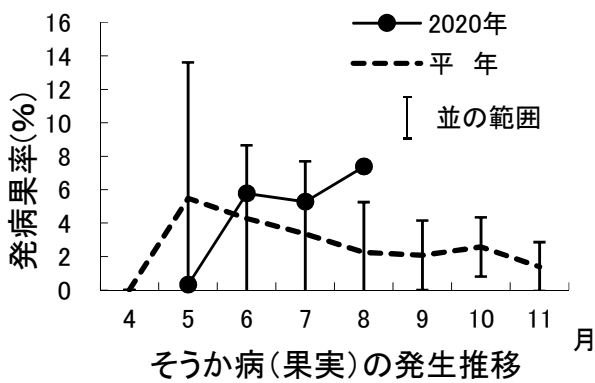
防除のポイント

- ・ 周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

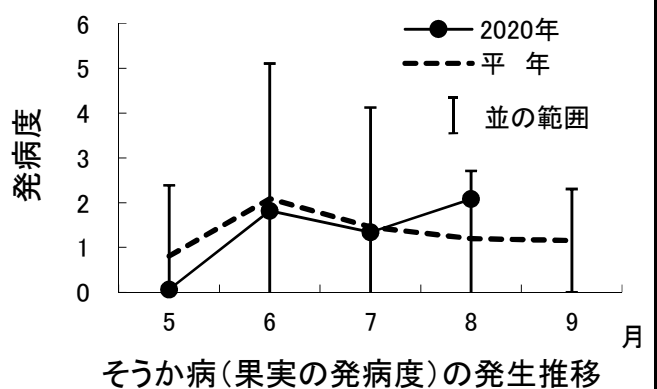
作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ そうか病		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	8 月からの増減傾向	→	
	9 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果

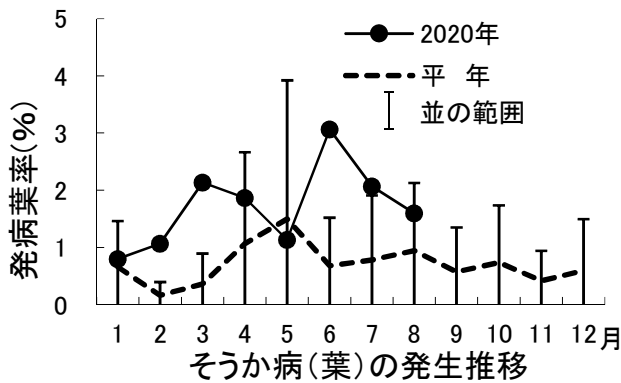
(発病果率)



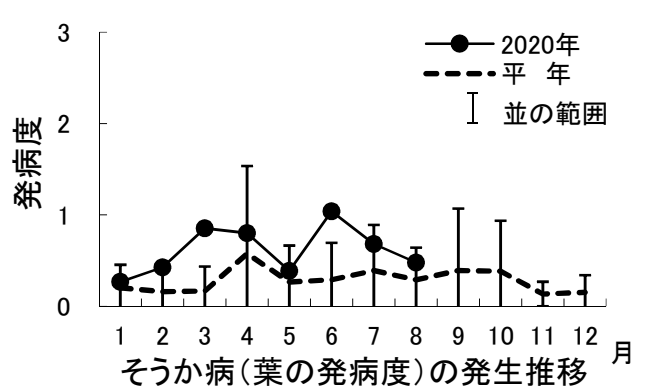
(果実の発病度)



(発病葉率)



(葉の発病度)




防除のポイント

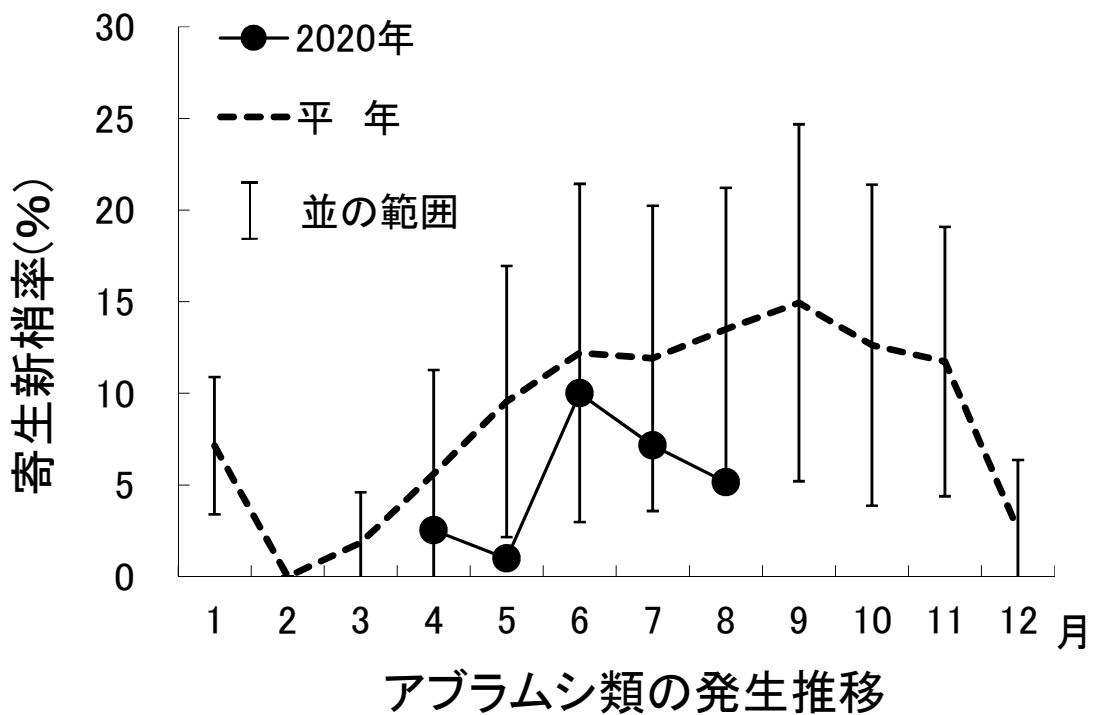
- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害果→



作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ アブラムシ類		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや少	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果




・ 発生ほ場率：40%（平年値：85.2%）

防除のポイント

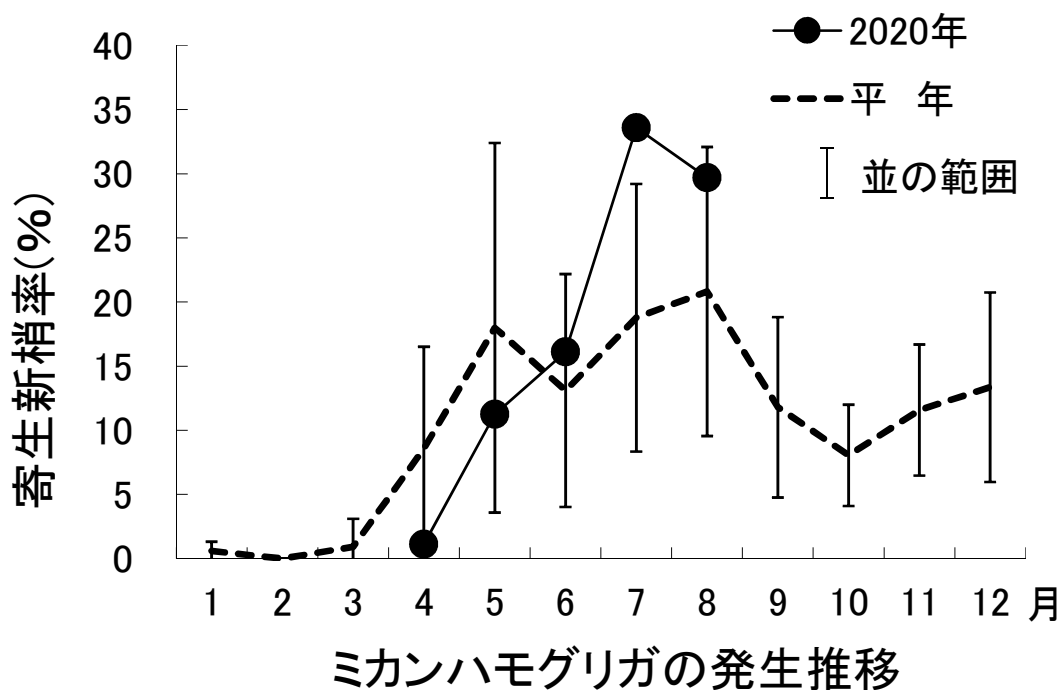
- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。





作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミカンハモグリガ		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並	
予報	8 月からの増減傾向	↓	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	


調査結果



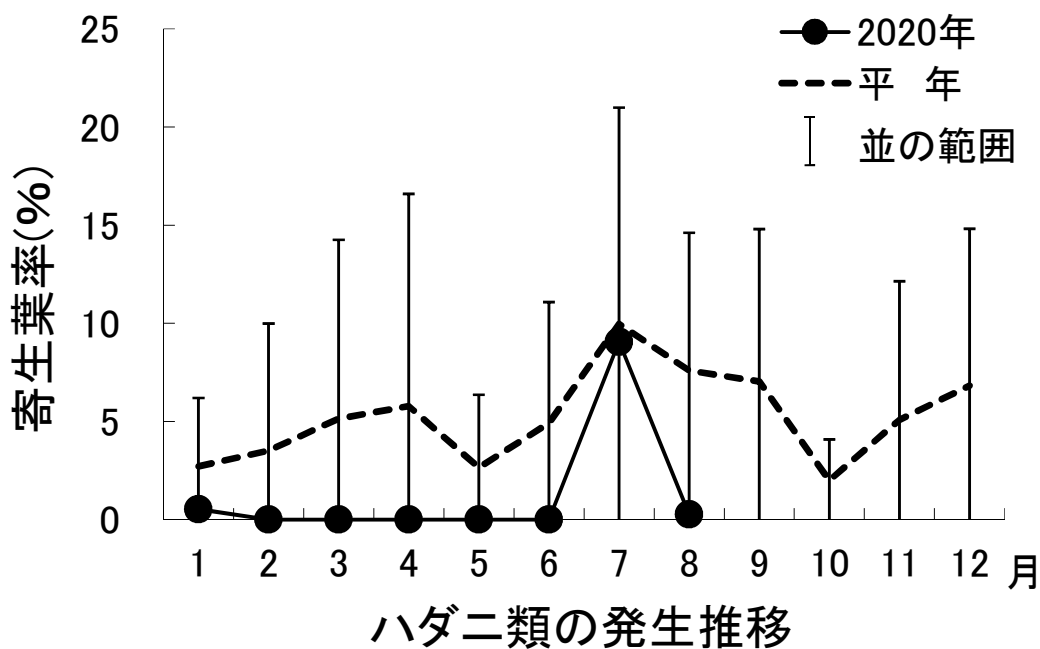
・ 発生ほ場率：100%（平年値：81.1%）

防除のポイント

- ・ 被害葉にかいよう病が発生しやすく、翌年の伝染源になるので除去に努める。
- ・ 被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ ハダニ類		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果



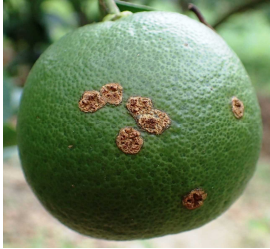
・ 発生ほ場率：20%（平年値：40%）

防除のポイント

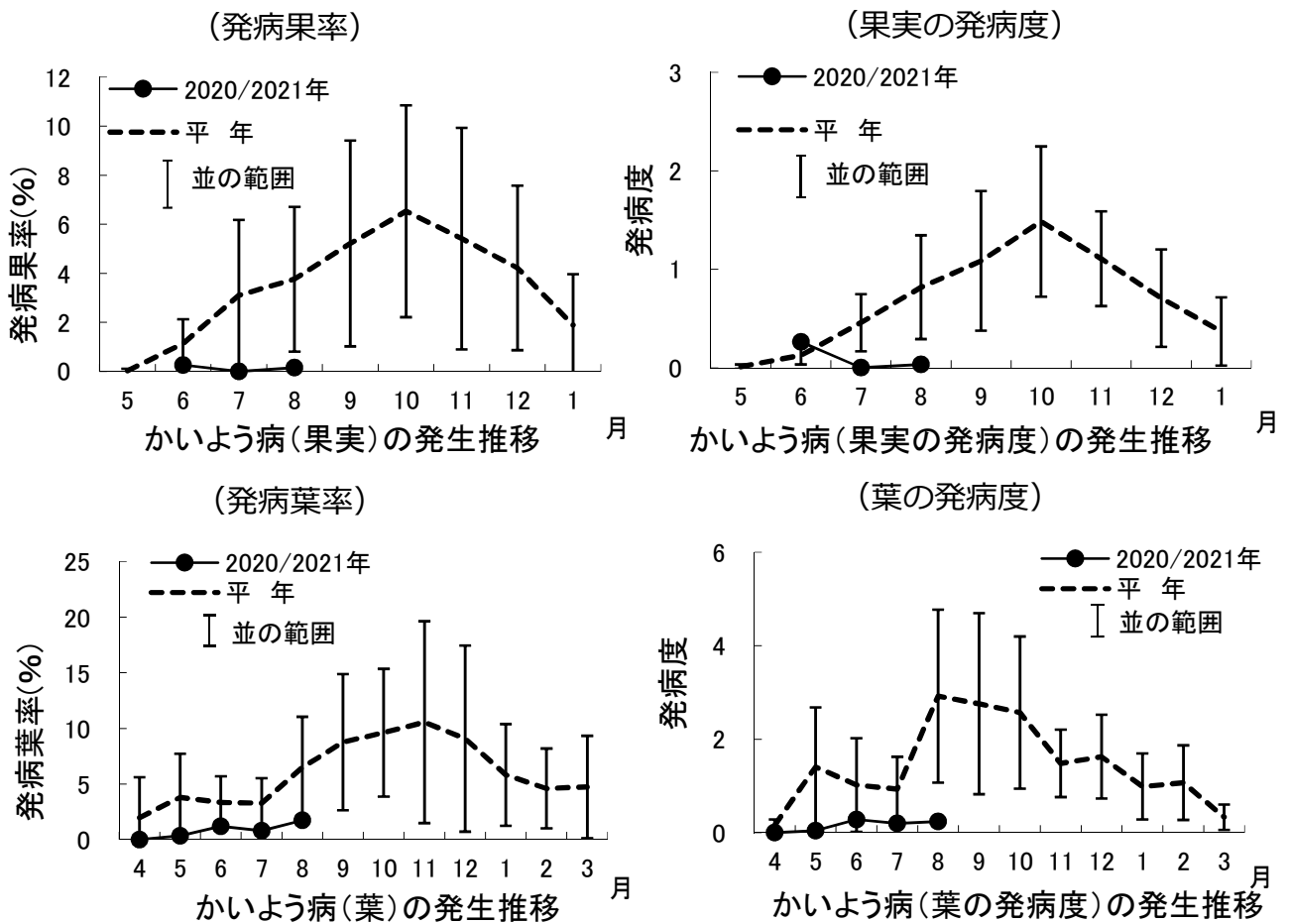
・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
		9 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果




防除のポイント

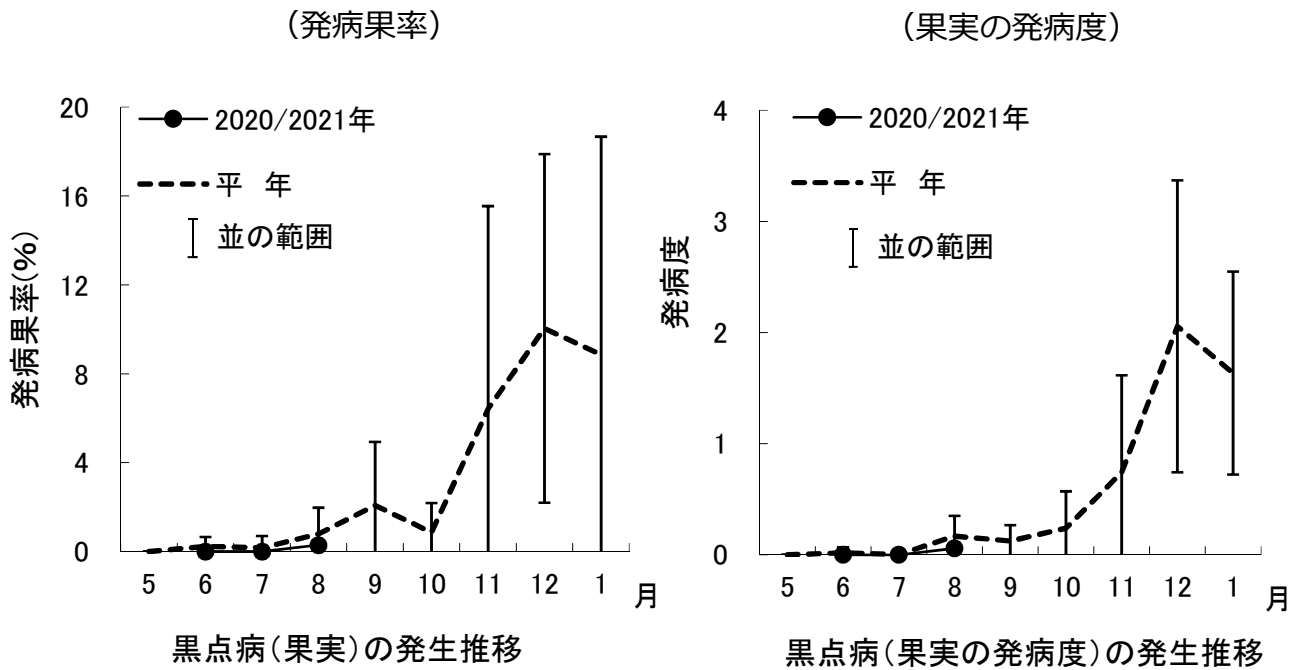
- ・罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口（風傷）は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。
- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努める。

被害葉→



作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	


調査結果



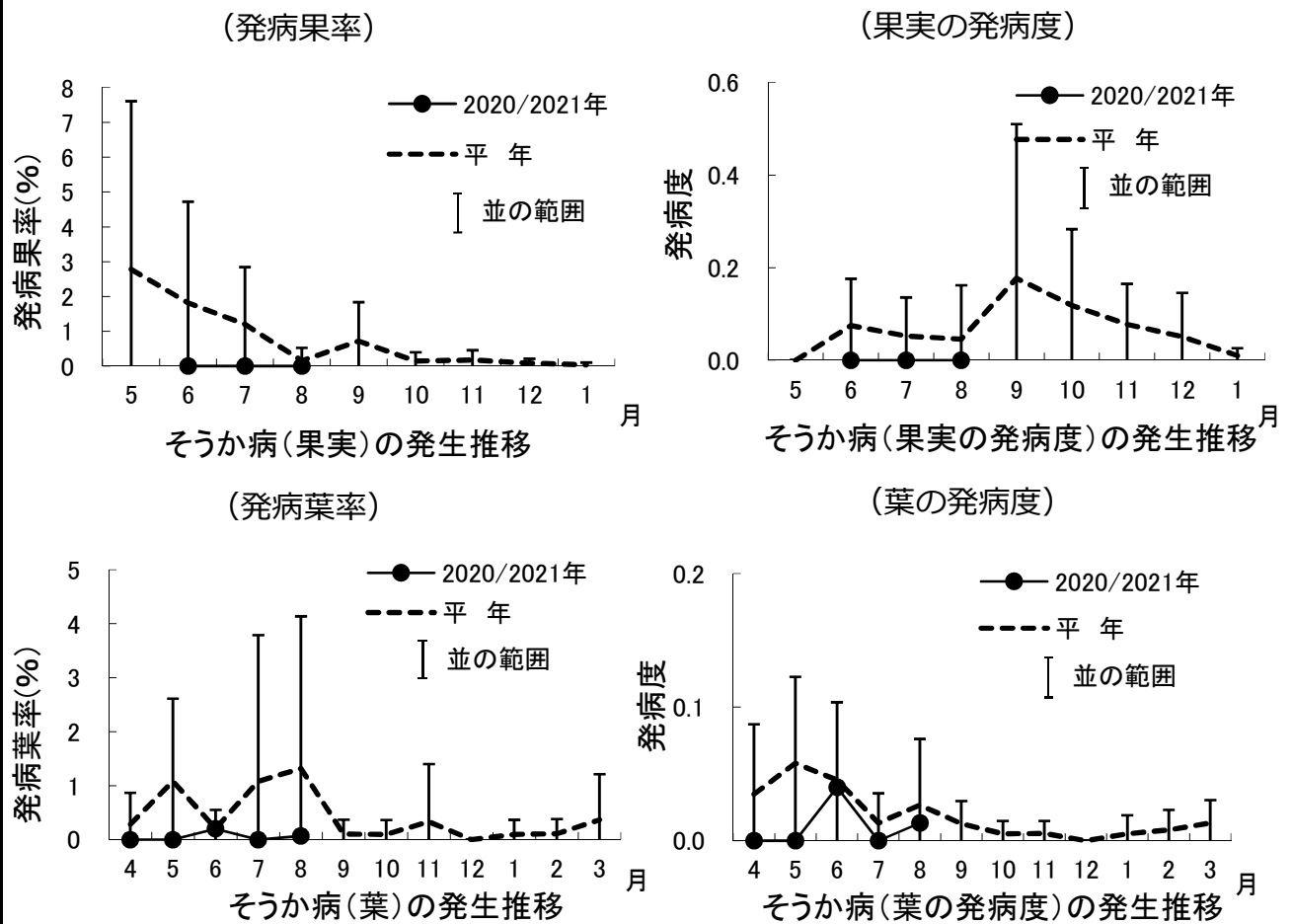
- ・ 発生ほ場率：60%（平年値：27.5%）

防除のポイント

- ・ 周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ そうか病		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
		9 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果




防除のポイント

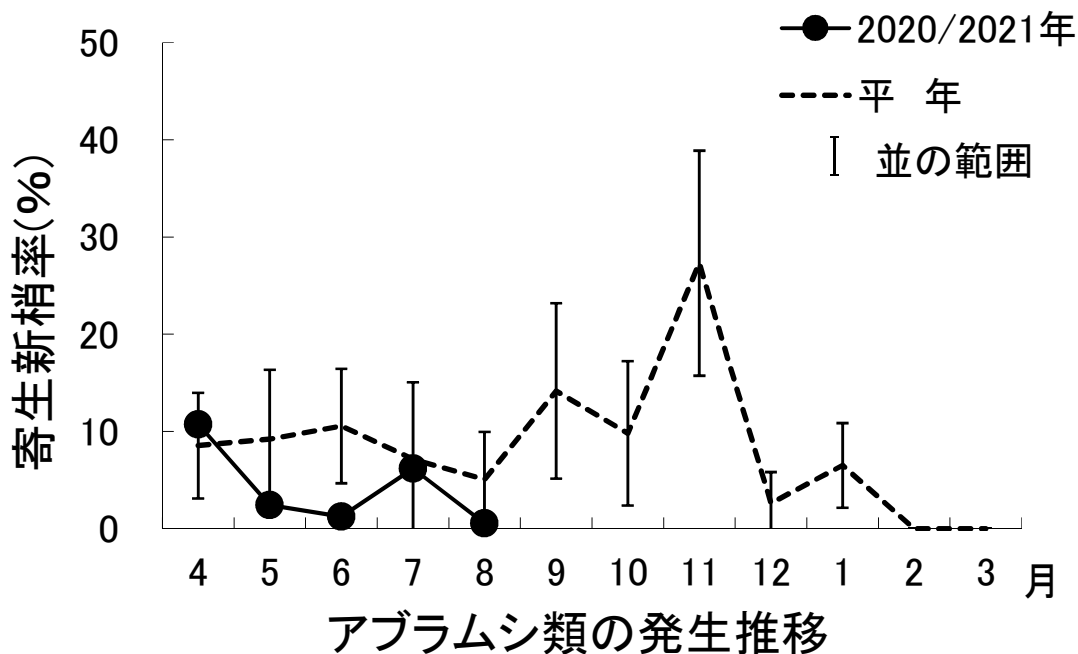
- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害葉→



作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ アブラムシ類		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果




・ 発生ほ場率：20%（平年値：40.7%）

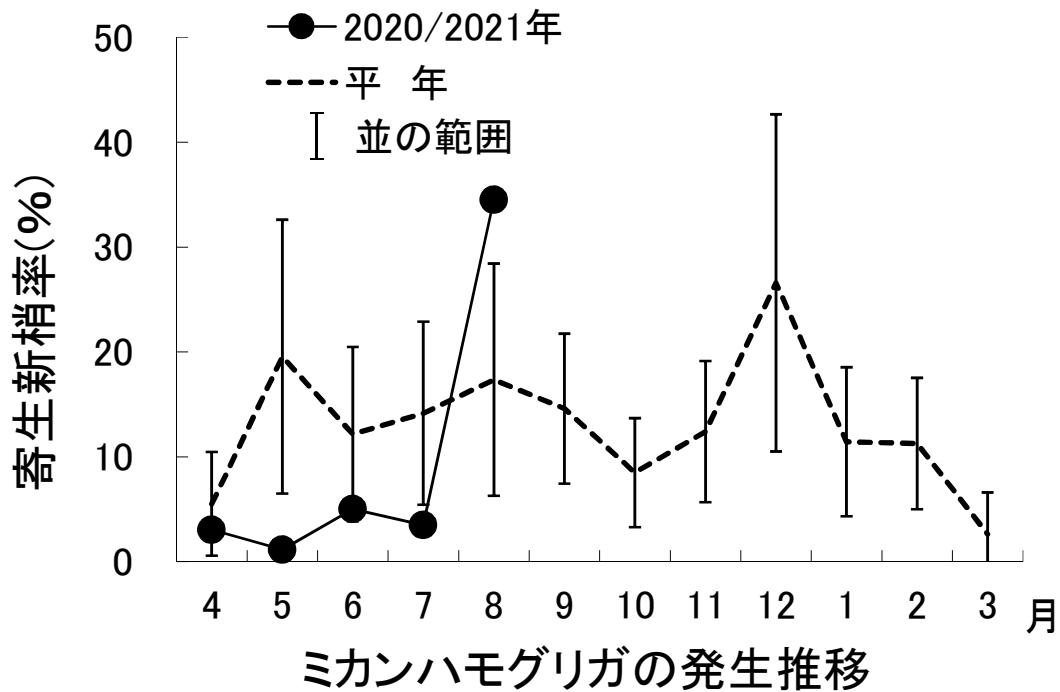
防除のポイント

- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。



作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミカンハモグリガ		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	8 月からの増減傾向	↓	
	9 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	


調査結果



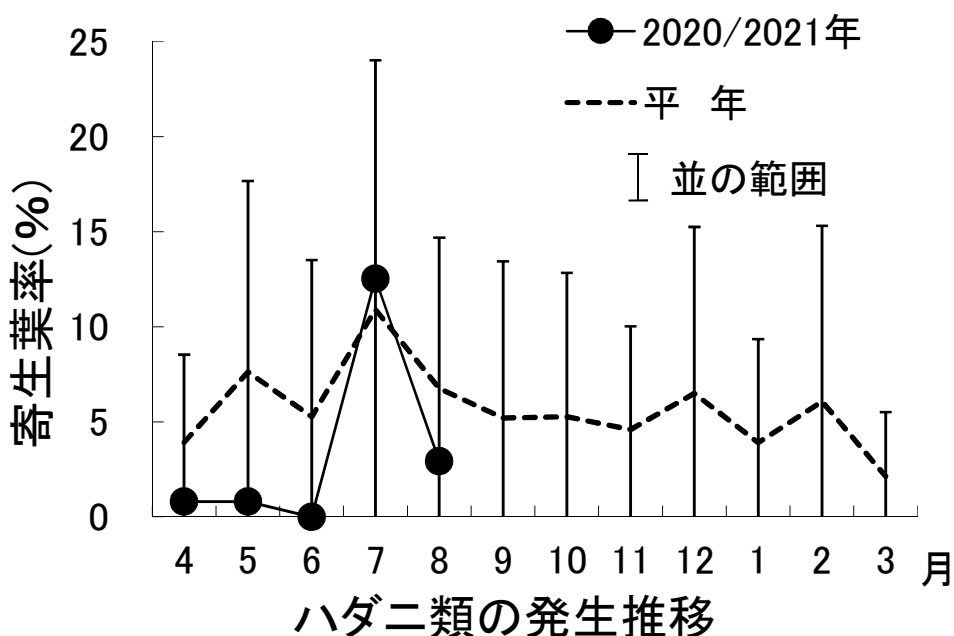
・ 発生ほ場率：80%（平年値：81.3%）

防除のポイント

- ・ 被害葉にかいよう病が発生しやすく、伝染源になるので除去に努める。
- ・ 被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ ハダニ類		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並	
予報	8 月からの増減傾向	↘	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	

調査結果



・ 発生ほ場率：40%（平年値：50%）


防除のポイント

・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

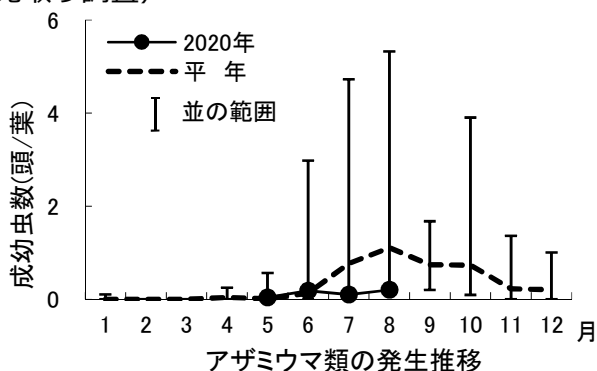


作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	↓	
		9 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

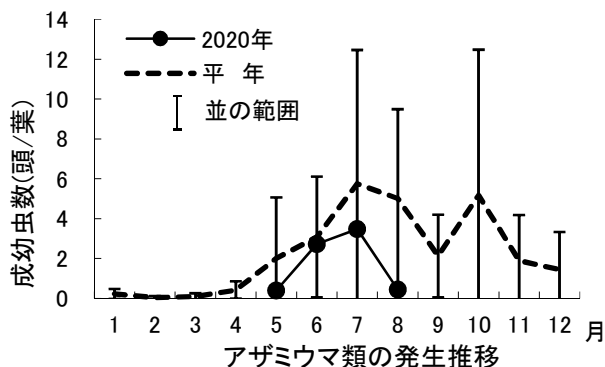
調査結果

(見取り調査)

〈中央値〉

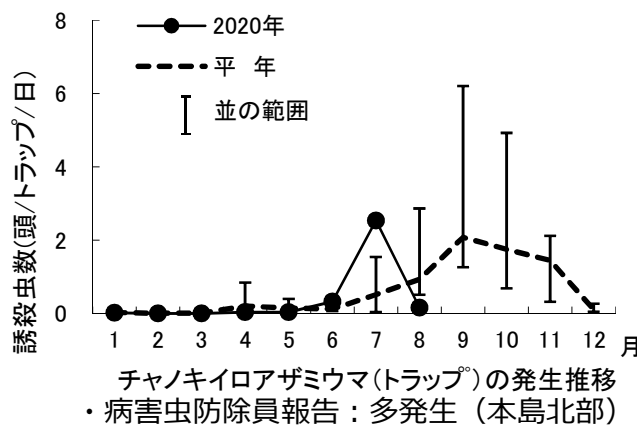


〈平均値〉

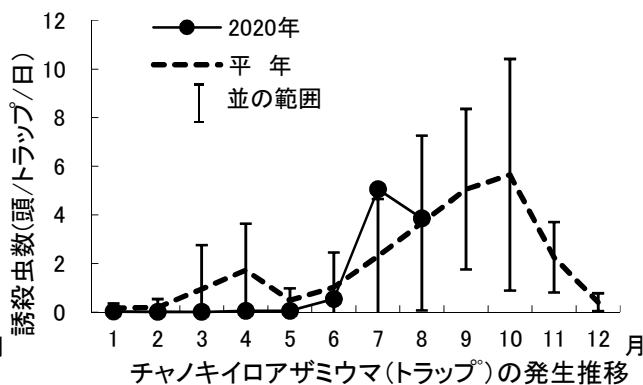


(トラップ調査)

〈中央値〉



〈平均値〉




・病害虫防除員報告：多発生（本島北部）

防除のポイント

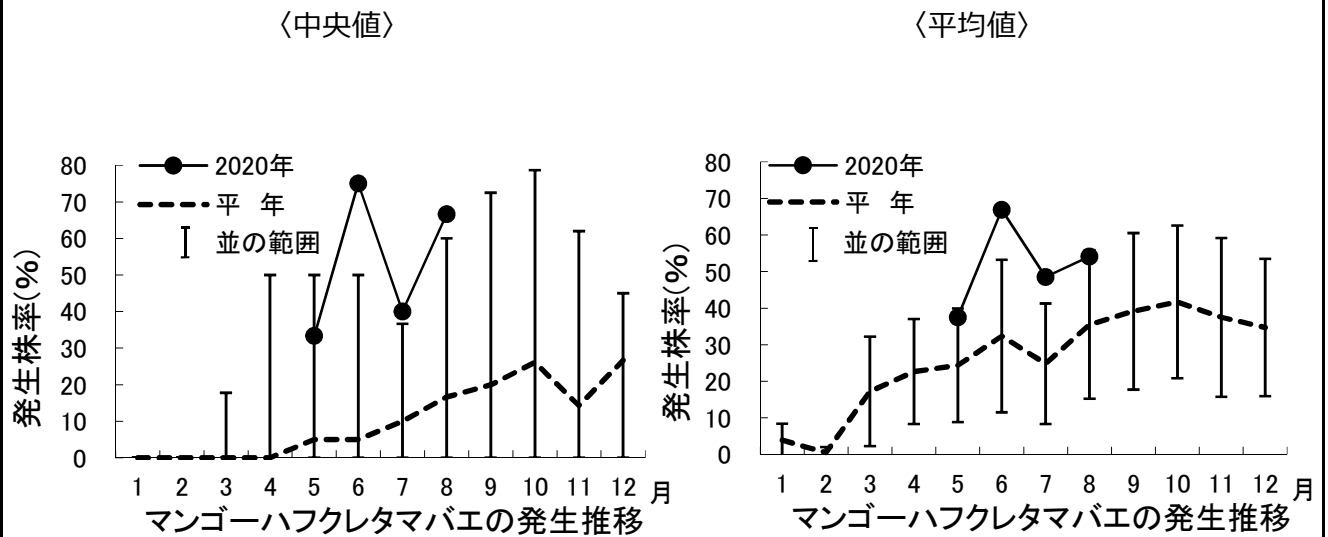
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ 収穫期に発生が多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける



ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
	9 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		新梢の発生量が増加するため	


調査結果



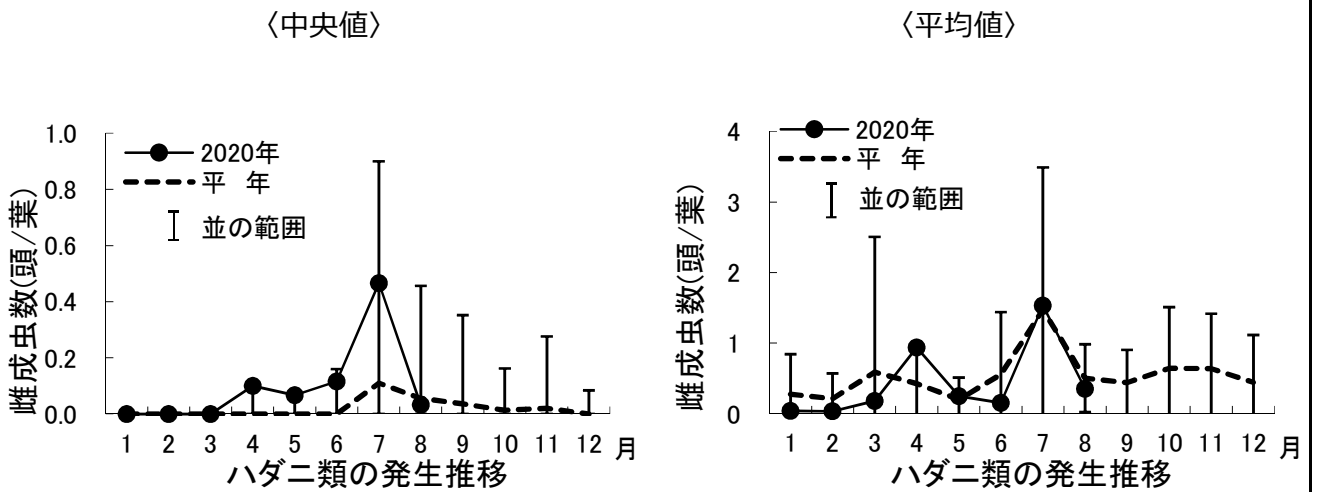
- ・ 被害新梢率：15.6% （平年値：16.7%）
- ・ 発生施設率：75% （平年値：58%）

防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	→	
	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果




- ・ 発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・ 発生施設率：62.5% (平年値：61.4%)
- ・ 新梢での寄生雌成虫数：0.3頭以下/葉 (発生種：シュレイツメハダニ)

防除のポイント

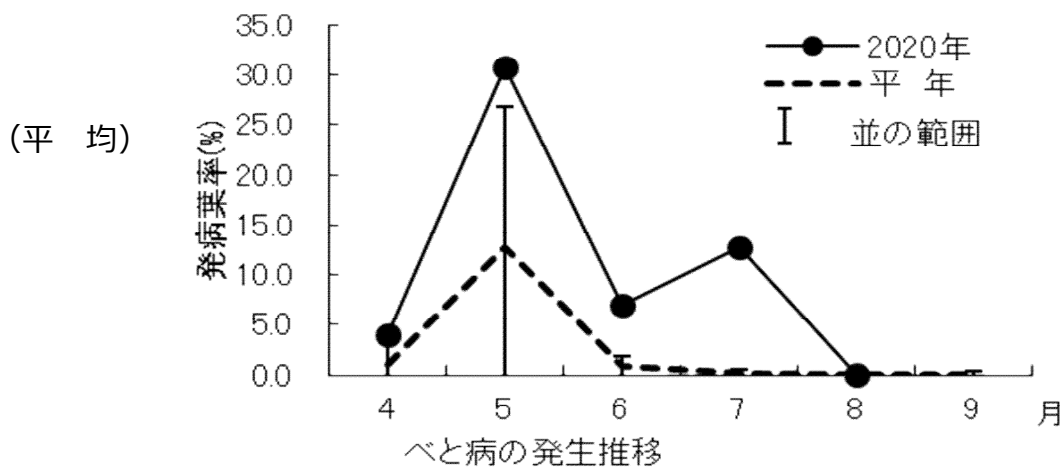
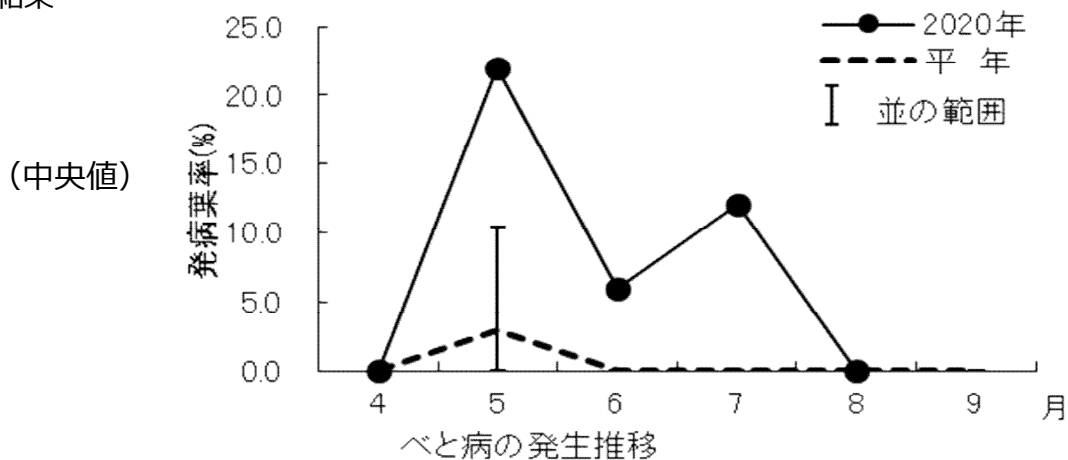
- ・ 晩秋にかけて発生が多くなるので、発生ほ場では早期発見・防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症

作物	ヘチマ	地域	沖縄群島
病害虫名	① ベと病		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	8 月からの増減傾向	→	
	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



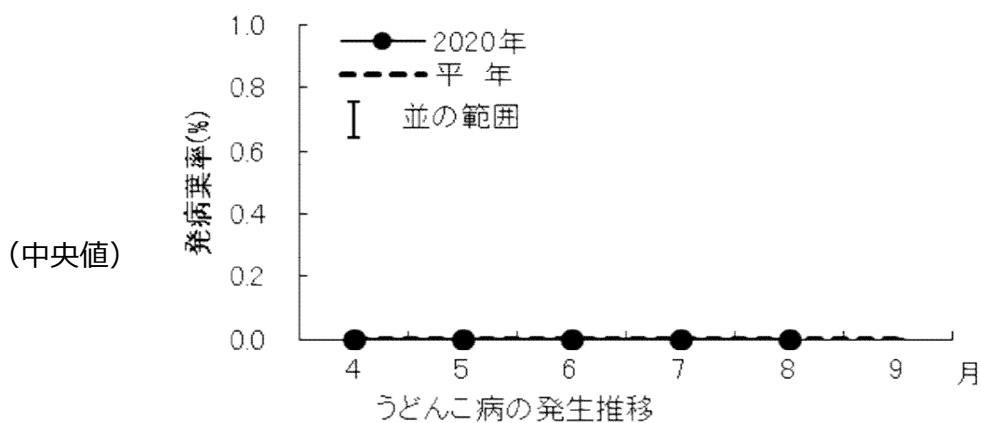
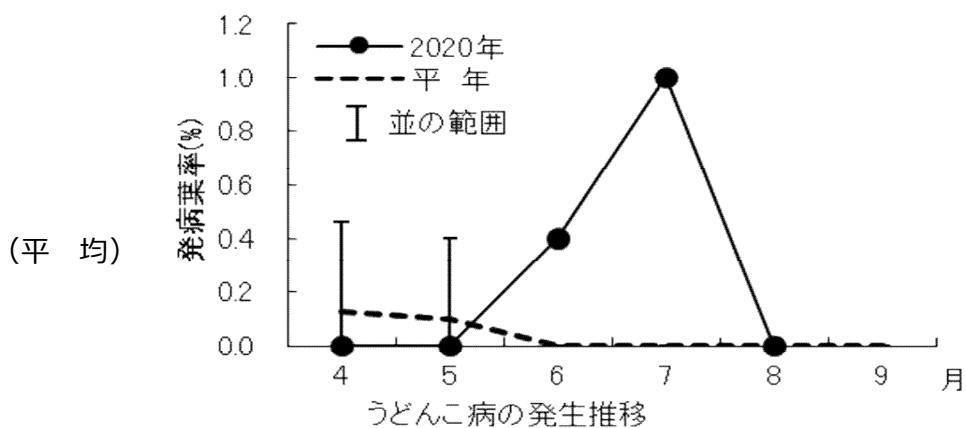
防除のポイント

- ・ 気温が10～25℃で多湿条件下で発生しやすい。
- ・ 老化した葉を除去し、採光・通風を良くする。
- ・ 適正な施肥管理を行う。




作物	ヘチマ	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	8 月からの増減傾向	→	
	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

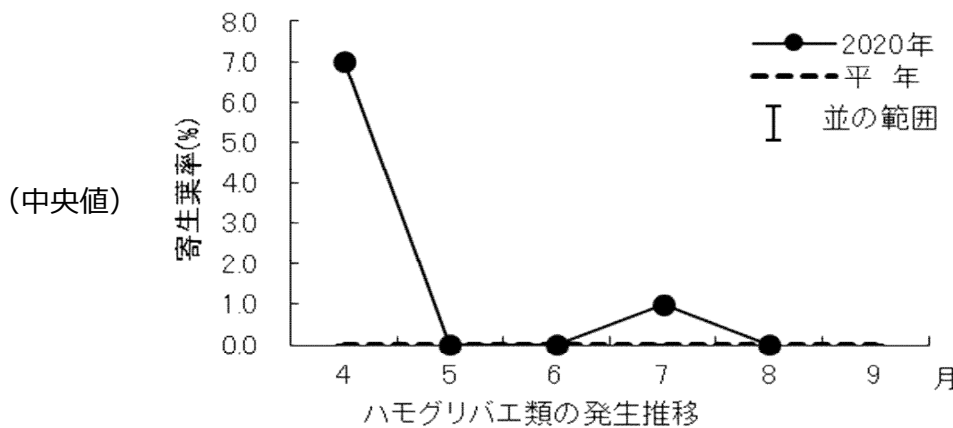
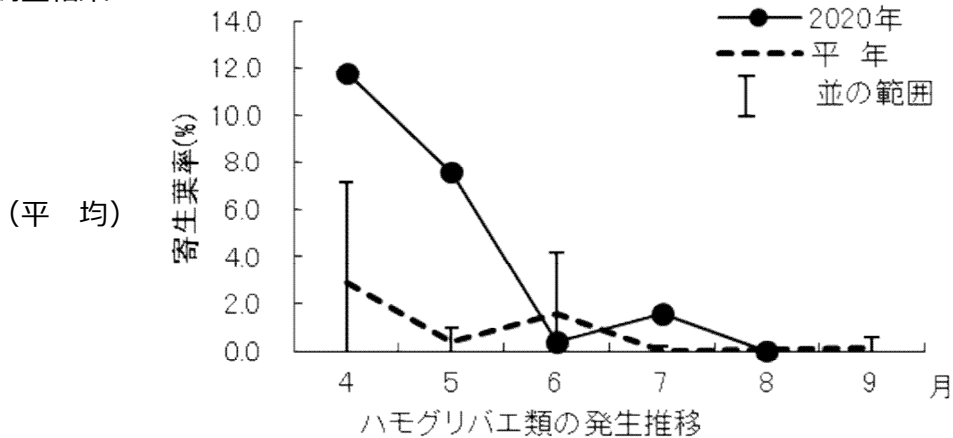


防除のポイント

- ・ 下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・ 窒素過多にならないようにする。
- ・ 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。


作物	ヘチマ	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	8 月からの増減傾向	→	
		9 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

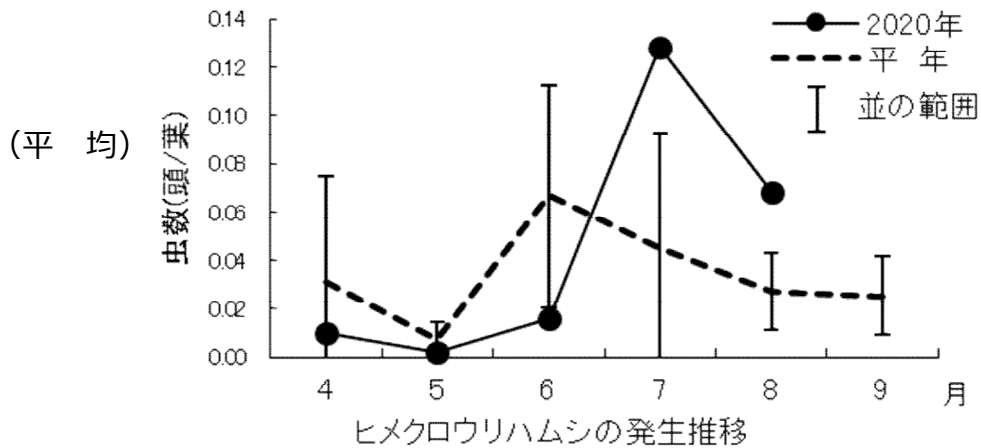
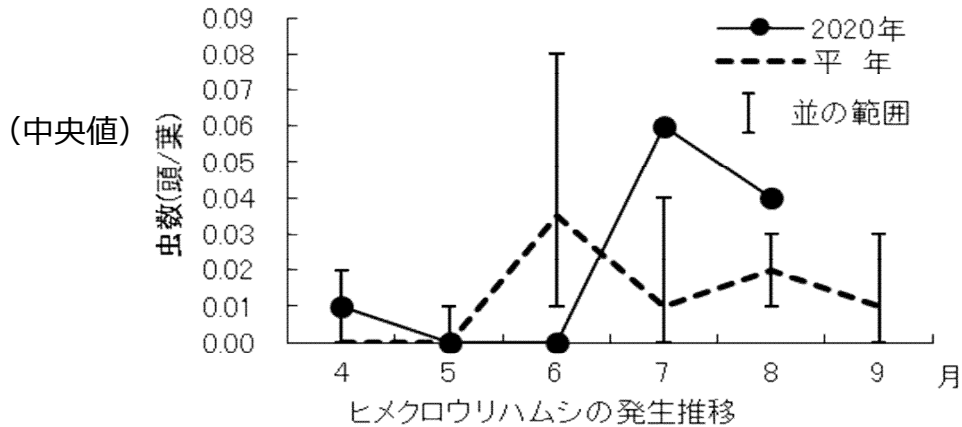


防除のポイント

- ・ 本種の寄生痕から病害が侵入する可能性があるため、発生初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるので除去する。


作物	ヘチマ	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ヒメクロウリハムシ		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	8 月からの増減傾向	↓	
		9 月の発生量 (平年比)	やや多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

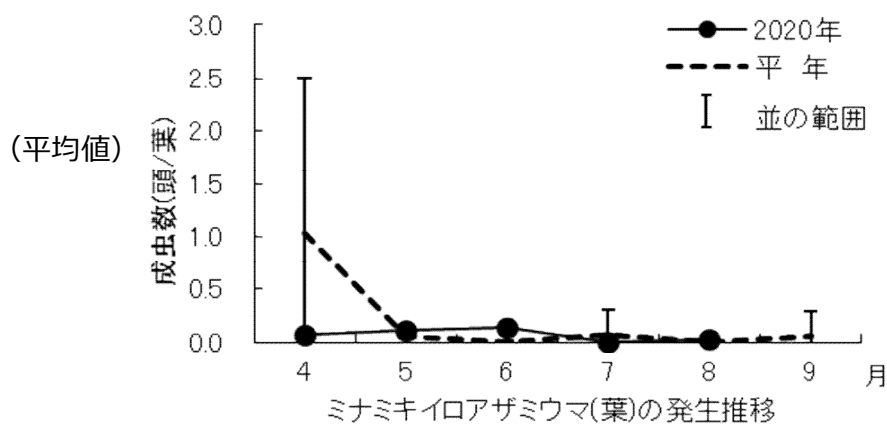
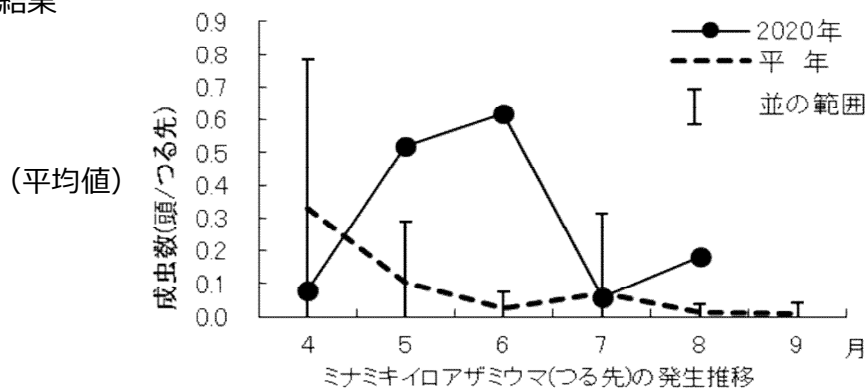


防除のポイント

- ・シルバーテープなど光反射資材を利用し、成虫の飛来防止に努める。
- ・ほ場内外のウリ科雑草は発生源になることから、根も含めて除去する。
- ・産卵防止のため、地際部をシートなどで覆う。
- ・動きの鈍い午前中に成虫を捕殺する。

作物	ヘチマ	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	多	
予報	8 月からの増減傾向	→	
	9 月の発生量 (平年比)	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果




・ 発病ほ場率 40.0% (平年 8.0%)

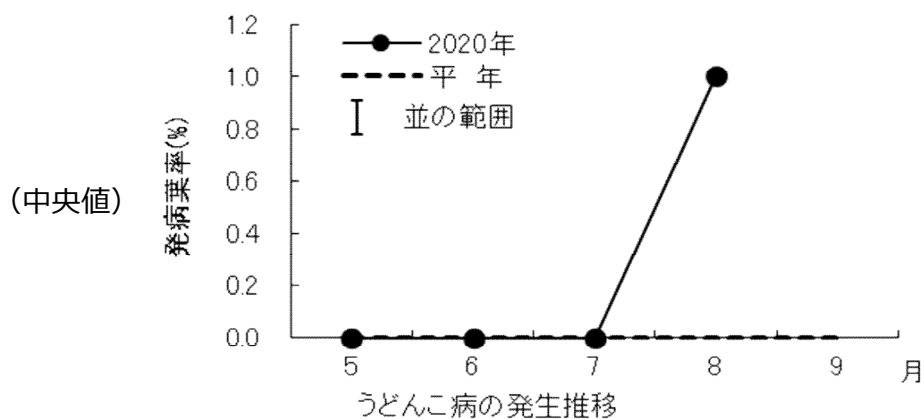
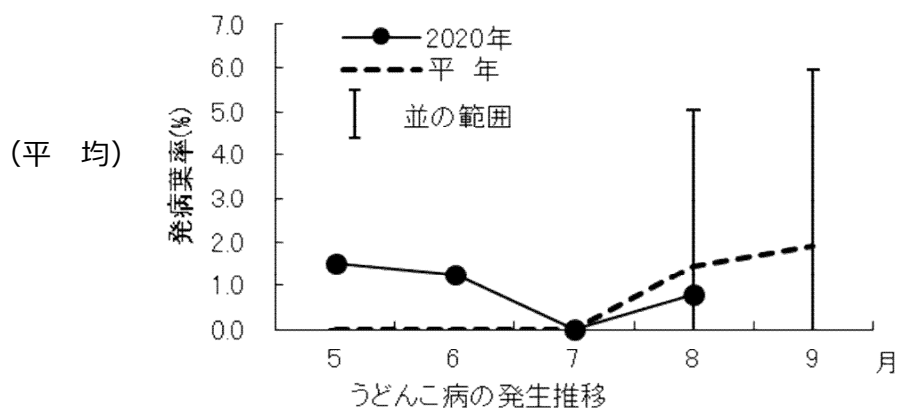
防除のポイント

- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・ 多くの雑草に寄生するため、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。




作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
		9 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

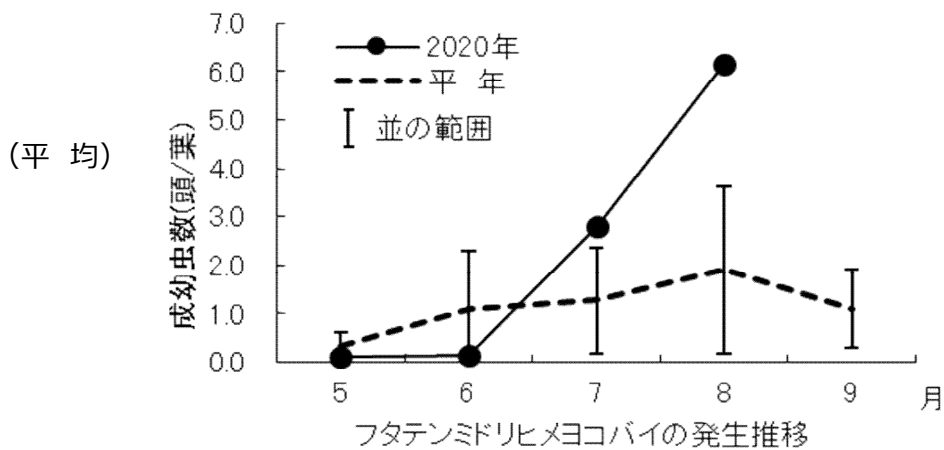
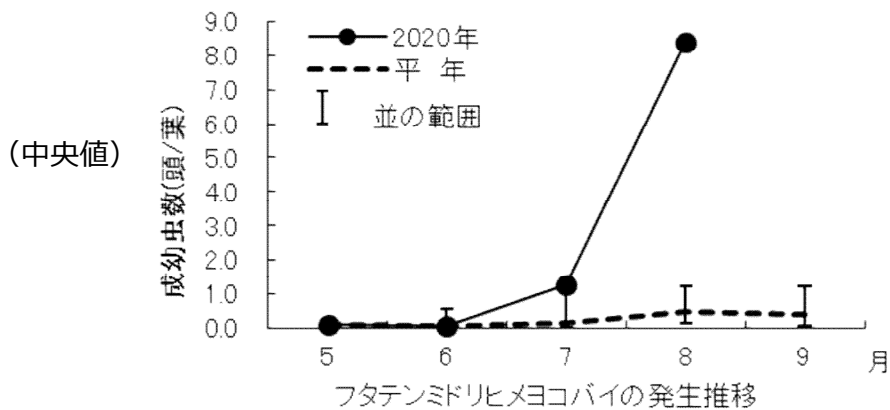


防除のポイント

- ・ 下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・ 窒素過多にならないようにする。
- ・ 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。


作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	8 月からの増減傾向	→	
	9 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

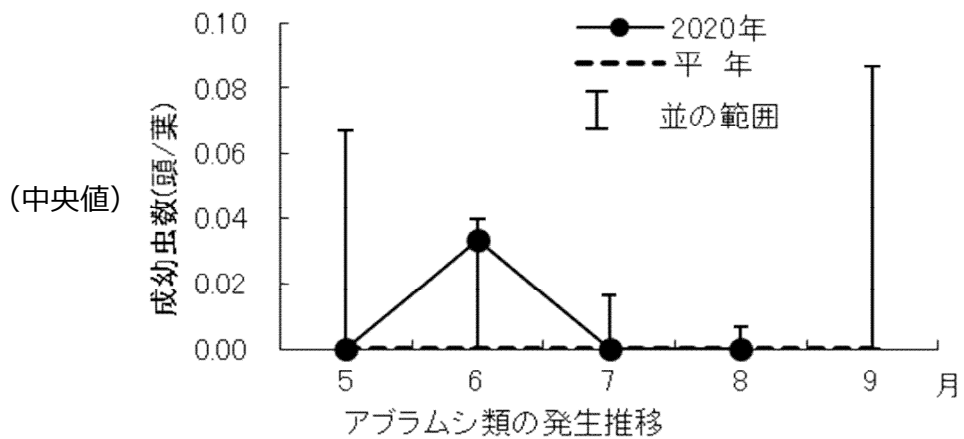
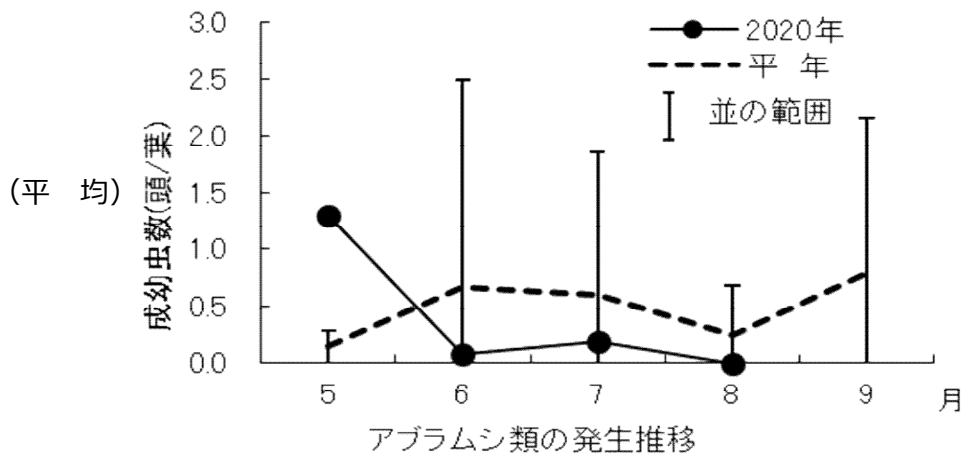


防除のポイント

- ・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。


作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
		9 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

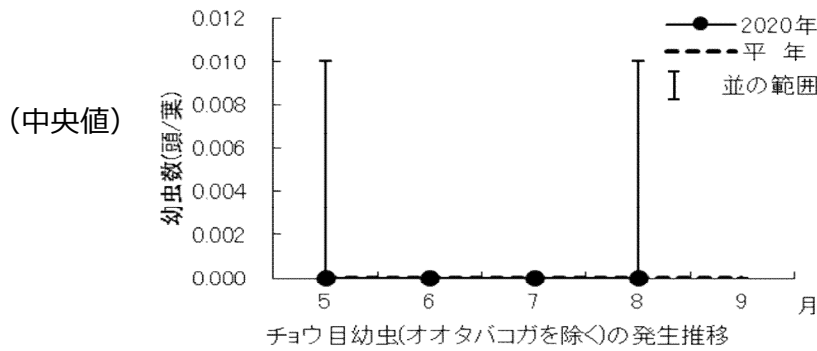
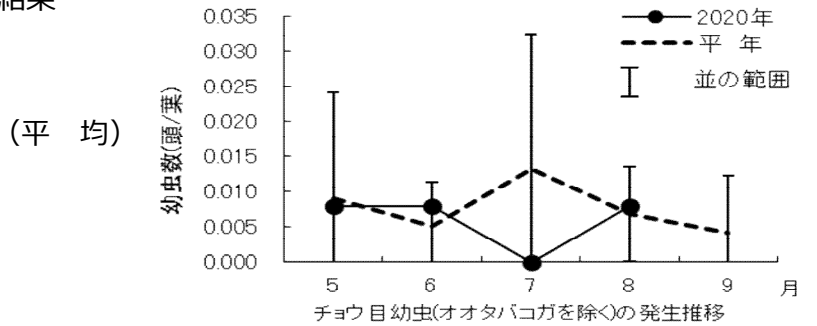


防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫(オオタバコガ除く)		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報	8 月からの増減傾向	↘	
		9 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果




・発生種： ハスモンヨトウ、フタトガリコヤガ

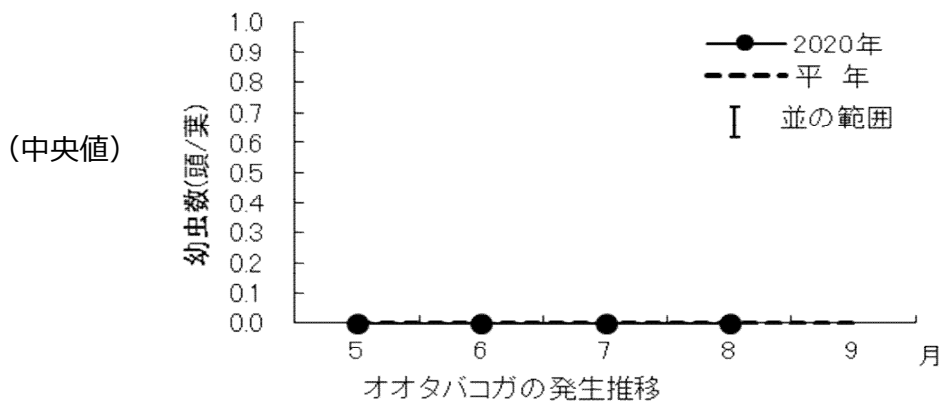
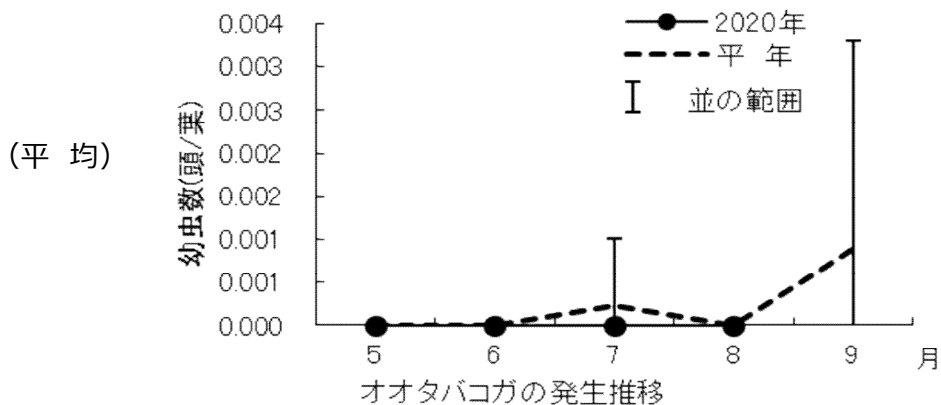
防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。



作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ オオタバコガ		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果



防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。
- ・被害果や摘芯、摘花した腋芽・花蕾等の残さは、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。